

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時からの理念を職員全員で再確認しながら、この2年間で何を大切にどのようなケアをすべきかを話し合い独自の理念を作り上げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングは、入所者のかた一人ひとりのケアが理念にそっているか必ず理解しながら、職員全員で具体的なケアについて話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族の方にはもちろんのこと、近所の方・訪問者・地域の住民の方々にお会いした時は、わかりやすく説明したり園内に理念をかかげている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常生活の中で買い物・散歩に出かけ、近隣の人々と話したり立ち寄ってもらったりして交流を深めたりしている。近所の畑から差し入れがあったり、こちらからも差し入れたり、気軽に訪問していただき話し相手に来られる方もいる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には出来るだけ参加している。毎月、児童館訪問で子供さんとの交流を通してお母さん方との交流もある。	○ 宮古島市になってからまだまだ自治会や婦人会・老人会などの流れが変わった為、今後地域活動の情報を集め参加していきたい。

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者・ご家族のプライバシーを十分配慮し、地域の学生の体験学習受け入れを通し、教諭・児童・両親へと認知症高齢者の受け入れ方・話し方などの知識を伝えている。	○	近隣の高齢者・認知症高齢者に気軽に訪問してもらい、交流できる場を設け、お互い刺激しあえる状況にしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をもとに、サービスの質の向上に努めている。改善に向け全員で話し合い検討し実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、どのように進めていけばいいのか分からずに現在に至っています。	○	運営推進会議を活かしていけるように、市町村担当の方との連携をして、サービス向上に活かしていきたいと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年に入ってから少しずつではありますが、市町村と認知症サポートでのかかわりをもちながら認知症を地域で支えていける町づくりをしていっています。	○	今後はもっと市町村担当の方とかかわりを持ちサービスの質の向上に取り組んでいきたいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティング、勉強会で理解してもらっている。対象者がいなかった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないこと。それに近い行為も行ってはならないので、日頃から虐待の徹底防止に努め勉強会やミーティングで話し合っている。	○	なにげない言葉や態度が、高齢者に心理的外傷を与えているかもしれないので、その都度注意し防止を徹底する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解除時には、ゆっくりと時間を取り分かりやすく重要事項説明書にそって詳しく説明し、利用者やご家族等の質問等にも十分説明し同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>思いや意見をうまく表すことが出来ない方が多いのですが、日頃声掛けし会話を通し、意見や苦情を探ってなんでも話してもらえるように働きかけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族等の来所時には必ず利用者の暮らしの様子、心身の状況、変化や問題が起きたときには報告し、相談できるような面談を行い、金銭についても定期的に報告している。新聞、生活の様子、メニュー表、食事量を配布している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族が来所時には必ず声掛けし、何でも意見、希望を言ってもらえるよう面談している。もし上記が出た時には、ミーティングで話し合い反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のミーティング、勉強会、職員の個人ケアで、皆の意見を聞くようにしている。また、日頃から、職員同士のコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたりしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務シフトは、希望も踏まえ、急病や急な休みの時にはヘルプしてくれる方を確保している。管理者は休みでも、電話連絡、その日の様子を確認し出来る限り園に顔を出している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所してから、利用者・御家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、離職者が出ないように努力している。変わるときには利用者にダメージをあたえないように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催されている講習にはなるべく多くの職員に参加してもらっている。</p> <p>毎月の勉強会も行っている。</p>	<p>○</p> <p>宮古島市・県病院・協力病院・社協等に働きかけ、職員の研修や育成を受ける機会には声掛けて参加してもらっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流や学習会を毎月一回行い、協働しながら質向上に取り組んでいる。そのときには、県病院の精神科・心療内科医も参加していただき、事例に対して検討・アドバイスもいただいている。</p>	<p>○</p> <p>管理者・介護支援専門員のみならず、スタッフ皆が参加できるようにしてサービス向上に取り組むたいと考えています。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の声掛け・体調・ストレス・悩みなど把握するよう努め、個人的に時間をとって話を聞く時間を設けている。他のグループホームとの交流・親睦会・勤務中の休憩などで緩和できるよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>定期的に個人ケアのために、個別にゆっくりと話を聞いてあげる時間を設けて、それぞれの悩みや希望を聞きできるだけ応えて挙げられるようにしているが、上司にはなかなか本当のことが言えないでいるのが現状です。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎日現場に来ており、利用者と過ごし、管理者と職員個々の業務、日頃の努力や具体的実績も把握している。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には必ず来所してもらい、事前にいろいろな話をして、利用者本人の求めていることや不安をよく聴くように努め、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には必ず御家族との面談、入所申し込み時の重要事項説明時に、困っている事、不安な事、今後どうあってほしいか、本人との意思とは区別してゆっくりと聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、本人や御家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援や提案を病院の地域連携室、ケアマネジャー等と相談しながら、サービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまでに本人や御家族に事業所を見学してもらいながら遊びに来てもらったり、時には自宅、入院先に出向き徐々に馴染みの関係になれるようにして、安心して納得してもらえるよう利用者の視点に立って柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に過ごしながら、家族のように喜怒哀楽を共にし、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い感謝をするという関係を築いて、穏やかな生活ができる場を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを御家族に伝え、家族からの思いに寄り添いながら日々の出来事・気づきを常に報告し、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い・家族の思い・状況を見極めながら、外出外泊で家族と一緒に過ごす事を勤めたり、日頃の状態を報告・相談するとともに、葉書をご自身に書いてもらい、より良い関係が継続できるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで生活してきた中で、馴染みの知人・友人等に訪問してもらったり、昔から利用している美容院に行ってもらったり、電話や手紙での連絡をとり、つながりを継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に助け合い、支え合って暮らせるよう世話役の人にうまく力を発揮してもらい、職員が調整役となり話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や場面作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用を終了された方は入院か介護度が重度化されて他の施設に移動されているので、こちらに来ていただくには難しいのですが、スタッフが会いに行ったり家族からの相談や支援に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の思い希望・意向の把握に努めている。把握が困難な方には、言葉や表情その人の視点に立ってスタッフ一同で話し合っ御家族からの情報からも得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時より少しずつ、本人や御家族・関係者などから生活歴や個性生活環境などの情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活の中で、暮らし方や心身の状態を把握しながら、本人が出来る事・理解できる事を見つけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族の思い意見を聞き、反映できるようにスタッフ一同話し合いを毎月一回カンファレンスを持ち介護計画に生かせるようにしている。	○	毎月、御家族との面談強化 主治医からのアドバイスなども聞き、介護計画に取り入れ作成したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな変化が生じた時には、その都度本人・御家族・主治医と相談し、スタッフとも話し合い介護計画の見直しをしてる。	○	必ず介護計画作成をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に、暮らしの様子・言葉・食事・排泄などの身体状況など事実・気づきを具体的に記録し職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所して日が浅い方、一年・二年目という利用者や御家族の状況や要望は変化しています。その都度要望・意向を聞き、利用者と御家族が安心して暮らしていけるように、その時々に必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が少しでも安らかに生き生きとした暮らしを作っていくために、毎月の児童館への訪問や教育機関の体験学習・見学など交流している。	○	警察・消防・民生委員・ボランティアなどにも働きかけ強化したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームで、他の介護保険以外のサービス支援というのは難しいと思いますが、他の事業所への訪問や他のケアマネとの話し合いは必要に応じて話し合っている。	○	近隣の食堂・喫茶店などを利用させてもらうなど、ボランティアの見守り支援を利用できるよう支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や事業所内で解決できない問題発生がないため、協働していないのが現状。	○	いつどんな事にぶつかるか分からないので、普段から地域包括支援センターとも連携を図り、周辺情報や支援に関係情報交換・協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族が希望する医療機関に受診できるように支援しているどうしても利用者の変化・健康面で必要な場合は、その都度相談しながらかかりつけ医と話し合い、情報のやりとりをしている。		

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>認知症であり高齢者が利用者なので、常に健康面の変化に気を配りできるだけ早めに、御家族・医療機関と密に話し合い、ターミナルケアについても話しを進めておきたいとします。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言動については、その都度注意したりミーティングで話し合いを持っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日常生活の中で、一人ひとり認知症進行が違っているの で、表情や全身での反応・希望・関心・好みを把握して、できるだけ自己決定できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、本人の意志を尊重し、体調等にも気を配り、食事時間・入浴・トイレ等対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は以前から本人が好む洋服をご家族に準備してもらい、カット、毛染め希望時には職員が支援している。美容院に行かれる方には馴染みのところへ御家族と一緒に連れてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理や盛り付け、後片付け等は職員と一緒に 行い、好き嫌いにも気を配りながら同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。近くのスーパーと一緒に出かけ、食材、好みのお菓子を買ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、お菓子等本人が買ってきた物、来所の方から頂いた物は、自室で出来るだけ自由に食べてもらい、煙草は決まった場所で職員とコミュニケーションをとりながら喫煙している。歌を唄うのが好きな方、体を動かすのが好きな方に合わせて支援している。	

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を利用し、各人のパターンや排泄間隔を確認し、プライバシーを考えさりげなく声掛けをトイレでの排泄が出来るよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっていますが、本人希望により日時を変更して入ってもらうか、どうしても入れない時は清拭して着替えていただいている。介助者もその人に合わせて決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中できるだけ活動してもらい、一日の生活リズムを整えるようにしていますが、個々の生活習慣やリズムに合わせて、それぞれ気に入っている場所で休んでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々が得意な事、出来ることを役割とし、他の利用者にも教えたりして、それが楽しみ、心のケアにもなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談して本人にお金を持ってもらい、一緒に買い物に行ったりして、本人の希望に答えている。月に1度は残金の確認はしている。(本人同意の下で)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日や、行事等のある日には、ドライブ、散歩、日向ぼっこ等を行い、希望に沿って園外に出かけるようにして気分転換を計っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別あるいは他の利用者の方と初詣や行事、御家族と相談して墓参りや、喫茶店、食堂、美容室等に、本人の希望に応じて意欲、自立を保っていけるよう支援している。		

記入日:平成20年4月14日

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に希望に応じて電話を掛けられるようにしている。手紙、年賀状等、職員と一緒に書き、御家族や大切な人との関係を大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間も定めておらず、都合のいい時間にいつでも気軽に訪ねてきていただけるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的拘束のないケアをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	園内は開放的でどこからでも外には出られ自由に散歩してもらっている。もし徘徊の方が園外に出てしまっても、無理に引き止めず一緒に散歩したりそのまま買い物に行き帰ってきたりと、安全を確保しながら、後ろからついて見守りをし、時には声を掛けて話を聴いてあげながら帰所できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人のプライバシーに配慮しながら、利用者の所在や様子を観察、見守りをし、ケアや緊急時に備えて状況を最も確認しやすい位置にいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活の上で必要な物品や普通の家庭と同じように配置しているが、利用者の状態を十分把握しながらスタッフで検討した結果、危険を防ぐため一部の方のみあずかっている物品もある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合、事故報告書や、ヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。すみやかに御家族へ報告も行い、再び発生しないように検討をしている。		

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	身体状態の急変や事故発生時の対応は、勉強会・ミーティングで慌てずに行動できるよう指導に努めているが、職員から不安の声が聞かれる為、外部からの訓練も必要と思われる。	○	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を予定しています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難路の確保、設備点検を定期的に行っている。	○	消火訓練・避難訓練の予定 地域の方達、御近所の事業所の協力が得られるように日頃から話し合いをしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時のみならず常にご家族と話し合い、こちらの取り組み方針を示し納得の上、制圧感のない暮らしの支援に努力し、状態変化に応じて繰り返し対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の方の変化や異常の発見に努め、速やかに対応し報告しあい、ご家族・医療機関へつなげるように日常化している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人処方服薬している目的・副作用・用法・用量を職員全員理解しており、心身上の変化・課題がみられた場合、速やかに主治医・ご家族に報告し、服薬調整の参考にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表をつけ、食事・おやつを含めメニューを考えている。就寝前にはヨーグルトを飲んでもらったり、適度な運動やリハビリ的な体操をして、薬に頼らないで自然排便できるよう促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の洗浄も声掛けを行い実施している。義歯が合っているかどうか状態をチェックし、歯科検診にもつなげている。		

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、職員全員が意識を持ち一人ひとり量を確認し声掛けしながら摂取を促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の手指の消毒や体の清潔にも努め、ご家族の同意をいただきインフルエンザの予防接種も受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は衛生に努め、調理する前は必ず手洗いの徹底、食事の管理はもちろん、出来る限り安全な地元の食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門・玄関は広々として威圧感なく、鉢植え花を飾り親しみやすく、出入りしやすいように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で広々、窓からの自然光があり明るく、居心地のよい場になっていて、自宅の延長のようにテレビ・音楽と音量にも気を配り不快にならないよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファー・中庭にベンチ・廊下にソファ・畳間があり、利用者の状況・状態によって居場所をつくっている。		

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベット以外は利用者の好みに合わせ使い慣れた物を活かし、ご家族の写真・自分の作品などを飾って、安心して過ごせる居心地のいい部屋になるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の環境設備・掃除で衛生に努め、各部屋の空気の入れ替え、利用者の状況に合わせて温度調節にも気を配り自然環境に近い管理を努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりを追加したりして居住環境が適しているか見直し、安全確保への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、何でも訴えてくれるような雰囲気作りをし不安や混乱失敗などを招かないように話し、環境や物品に対して検討している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、畑のスペースを確保し活動できるような環境を作っている。中庭のベンチで日向ぼっこができるような工夫をしている。	○	徘徊をする方のために、園外に歩いていて疲れた時に休めるベンチなど所々に配置したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム あさぎりの里)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 笑顔での挨拶、コミュニケーション、体と体のふれ合い(タッチ)、本人の意向を尊重し、1日のスケジュール、ペースに合わせています。毎日笑い声が聞こえるようにしています。4月21日より学習療法(くもん)を導入します。今後どのように利用者の方に効果が出るかはわかりませんが、この学習療法に当たって、認知症高齢者でも可能性があること、スタッフにも利用者の自己実現に支援の手を差し伸べたいと思う気持ちが生まれ、支援する立場としての自信、喜びが生まれ、コミュニケーション技術が向上してくれることを目的とし期待しています。